

令和8(2026)年度

熊本大学法学部

後期日程入試問題

小論文

試験時間 120分

ページ … 1~4

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この小冊子は開かないこと。
2. 試験開始後、問題用紙、解答用紙、下書用紙が揃っているかを確認すること。
3. 解答用紙すべてに受験番号を記入し、氏名は記入しないこと。
4. 解答は必ず解答用紙の指定された箇所に記入すること。なお、解答用紙の追加は認めない。
5. 配布された解答用紙は持ち出さないこと。

試験終了後、問題用紙および下書用紙は持ち帰ること。

【問題】 次頁からの文章(本文)および以下の「設定」を読み、「問一」および「問二」に解答しなさい。

【設定】

菓子屋と医者との事件において、菓子屋の騒音による医者の損害は年間五〇万円とする。菓子屋の厨房に騒音除去装置を設置すると一年あたり二〇万円かかるとする。医者の小屋に防音壁装置を設置すると一年あたり一〇万円かかるとする(これが最も安価な損害防止策だとする)。また、いずれかがそれぞれの装置を設置すると、騒音は完全に防げるとしよう。

【問一】

(一) ①菓子屋にのみ権利を与えるルールとなっている場合、②医者にのみ権利を与えるルールとなっている場合のそれぞれについて、どちらの当事者が誰に何をし、その結果どのような状態がもたらされるか説明せよ。なお、両当事者の取引費用はかからないとする。(八〇〇字以内)

(二) ②医者にのみ権利を与えるルールとなっている場合において、医者の小屋の防音壁の設置費用の負担を菓子屋が行うことをめぐって、菓子屋には医者との交渉の実施費用が十二万円かかるとする。これを菓子屋の取引費用とし、それ以外には取引費用はかからないとする。このような状況が想定されるとき、法はどちらの当事者へ権利を与えたほうがよいだろうか。理由を付して説明せよ。(四〇〇字以内)

1

【問二】 著者は本文の題目の中で「法は取引のはじまり」という言葉を使っているが、その理由を述べよ。(四〇〇字以内)

【出典】 飯田高『法と社会科学をつなぐ』(有斐閣、二〇一六年)一三二〜一三九頁の一部である。なお、原典の一部を改変した。

著作権保護の観点から、
問題文は掲載していません。

著作権保護の観点から、
問題文は掲載していません。

著作権保護の観点から、
問題文は掲載していません。